

# 2025年度 本町田ひなた小学校の教育

2025年4月11日

# 教育目標の解釈

主体的に探究し、創造する子ども

主体的: 自治的活動の充実と課題を発見

学級活動、委員会活動、クラブ活動など

探 究: 情報収集、比較検討、まとめる

ICT機器の活用、事実の収集、集約など

創 造: 課題を解決し、よりよい学校生活を

子供たちの子供たちによる

子供たちのための学校生活の創造

# 教育目標の解釈

主体的に探究し、創造する子ども

魅せる 全力の姿

何事にも全力！

全力での失敗は、次の機会の糧

讃える 仲間の努力

違いは差ではなく、多様性を学ぶ最適の環境

間違いは、全体の学びの種！

繋ぐ 心の絆

上記二つが、ひなた小の誇りであり伝統

「ひなたっ子は〇〇である」が生活規範に

# 1 教育の変遷について

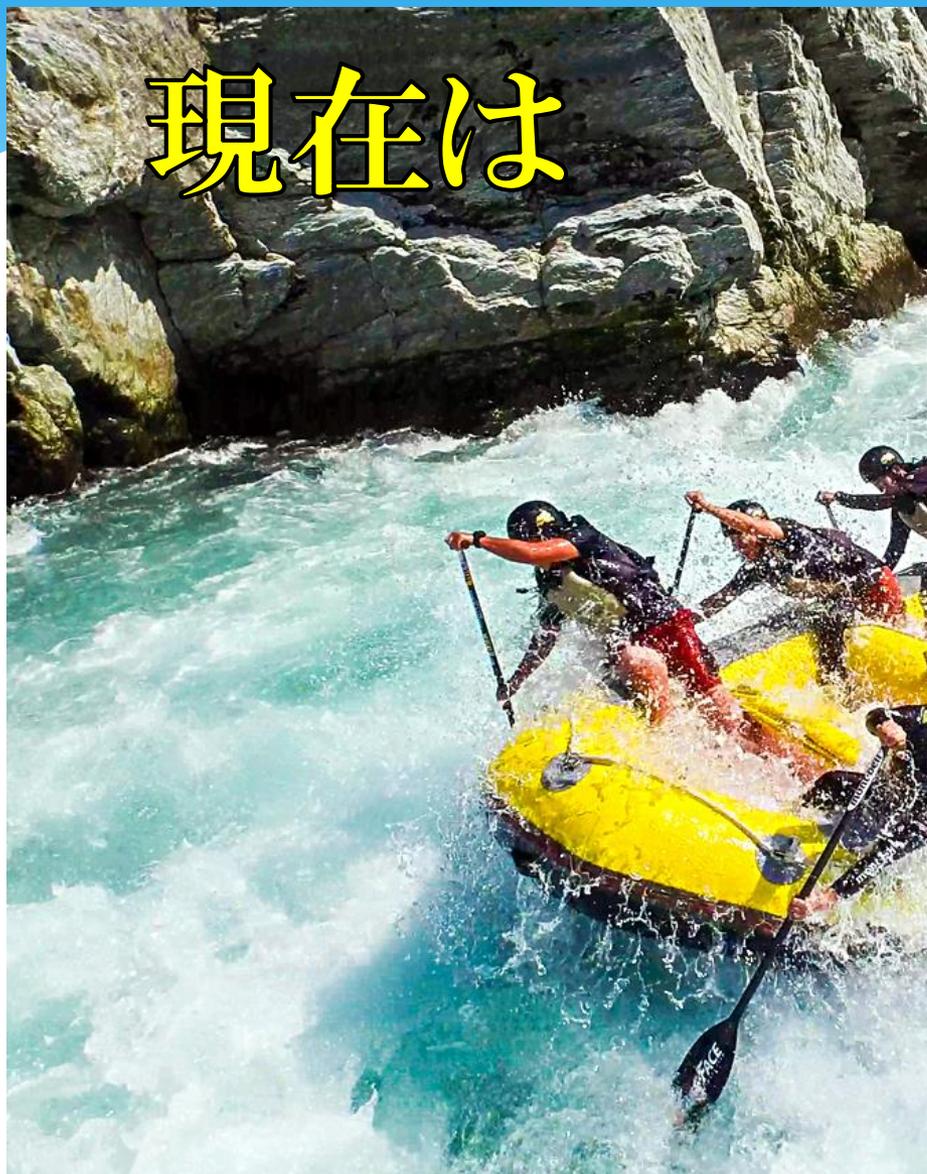
過去は



どこに向かうかは、一人が決める。ほかのメンバーは、言われたとおりに頑張る。

# 1 教育の変遷について

現在は



共に進む方向を決める。臨機応変に、各自が最適な方策をとり、一つのことを成し遂げていく。

AI時代はVUCAの時代。学び続ける力の育成が必要。

## 2 これから求められる力

### (1) VUCAの時代

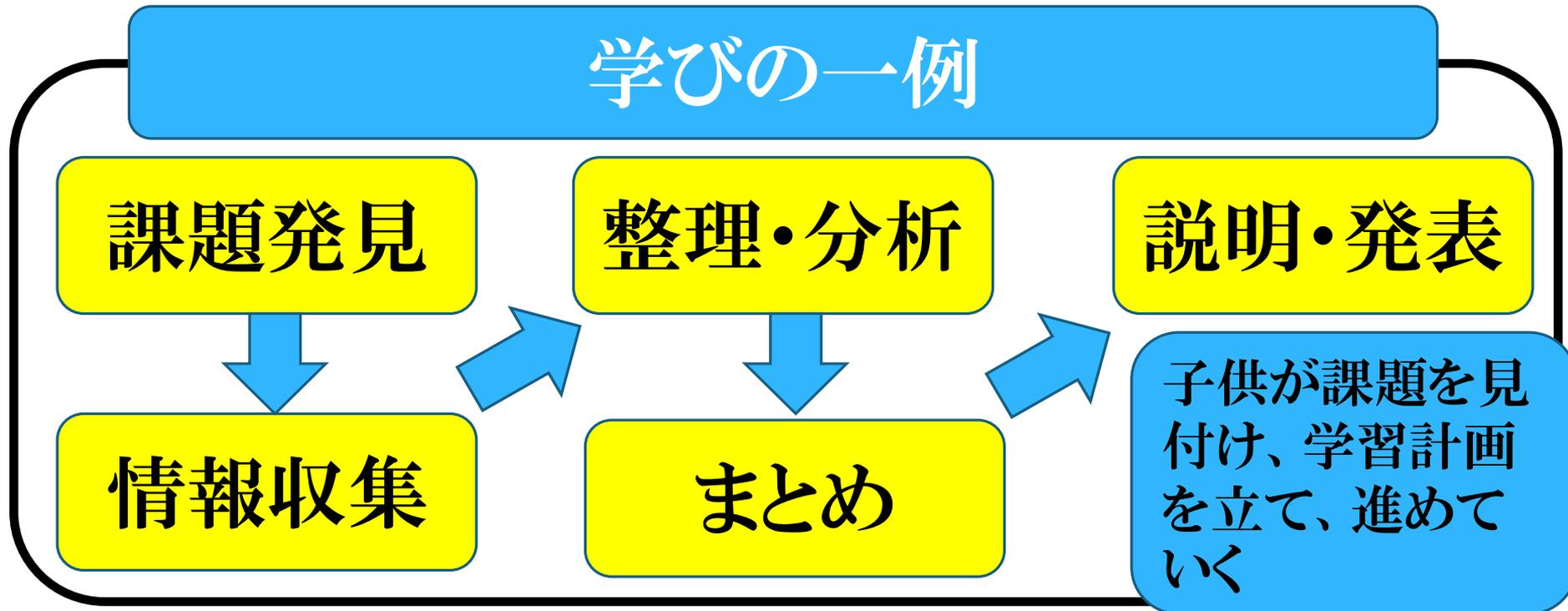
- **V: Volatility** 変動性
- **U: Uncertainty** 不確実性
- **C: Complexity** 複雑性
- **A: Ambiguity** 曖昧性

今ある知識が、2～3年後には使えない知識になっている可能性が大。常に新しい知識の獲得が必要。→ 学び続ける力が必要。  
質の高い知識を獲得させる → 使える知識

## 2 これから求められる力

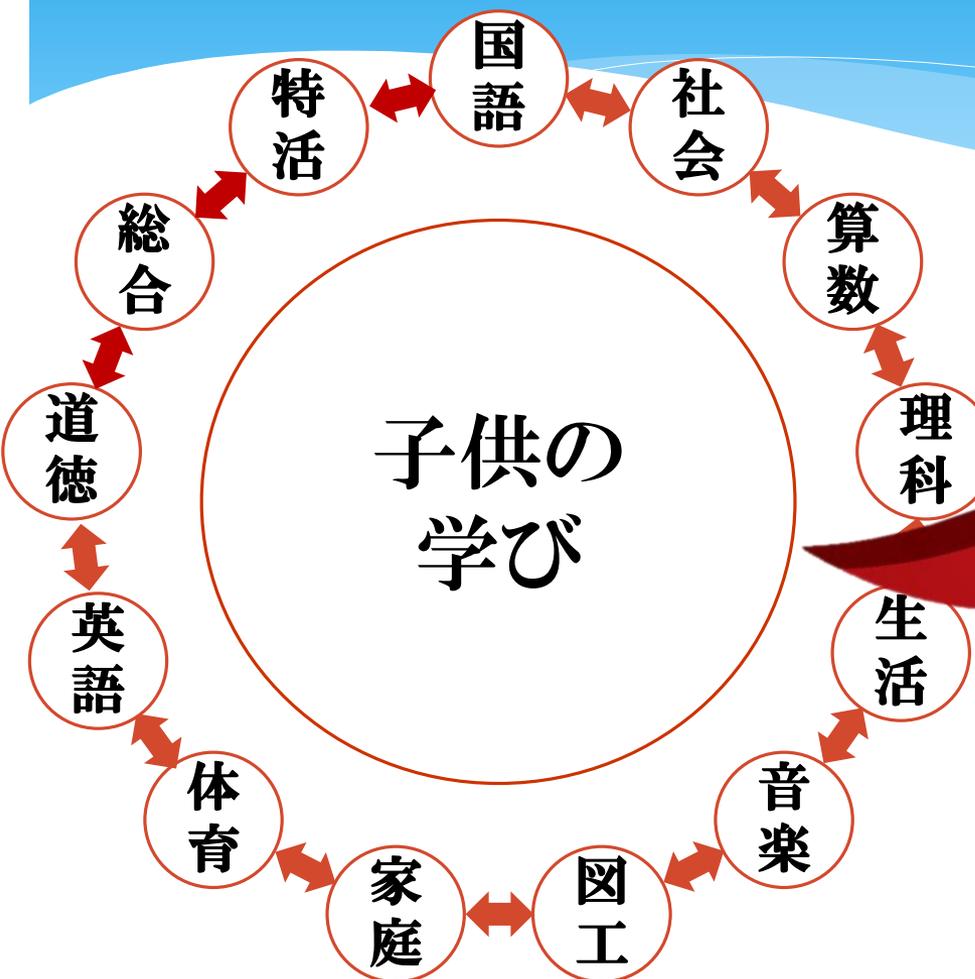
### (2) これからの「知識」

- 「使える知識」
- 「学び続けられる知識」



# 3 これからの学び

全ての教科・領域での  
学びが関連しあって、  
使える知識になる



日常の問題解決の  
際に、既知の知識  
を使って考察でき  
た時の心地よさ

子供は日々、大人  
に近付いている

## 4 本町田ひなた小での取組

(1) 縦割り班を活用して「ひなた」ならではの

- 人数が増えたからこそ楽しさ

多人数による多様性の価値の発見

違うからこそ魅力になり、成長できる

- 活動によって、活躍する人が代わる

遊び・体育的活動・プレイフルラーニングなど

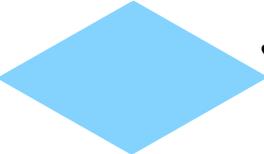
- 失敗から学び、成功させる力の育成

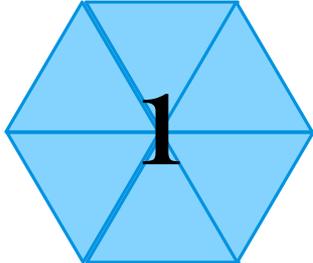
成功させてもらおう ➡ 成功させる子供へ

楽しみは、自分たちで創り上げる

# 補足 プレイフルラーニング

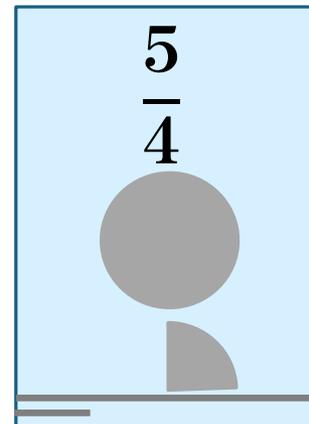
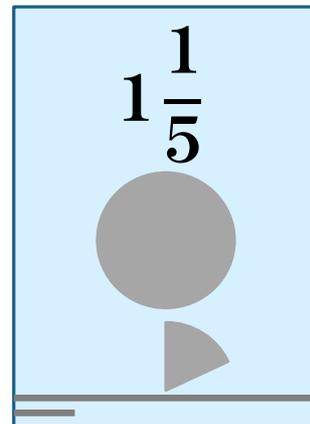
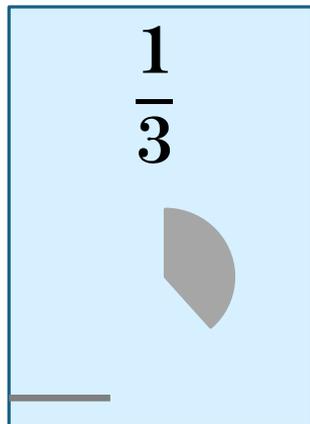
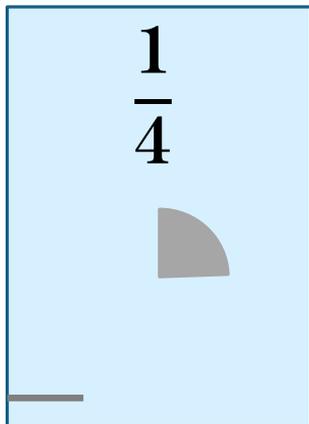
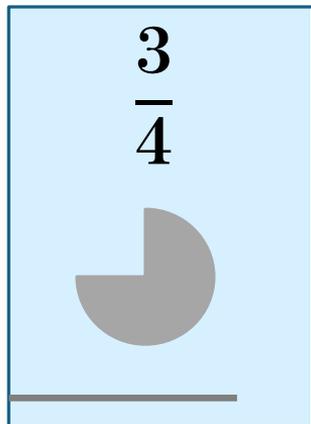
- 時間と時刻の学び(1~3年生)

10分 + 20分 =  と  で 

30分 + 30分 =  が2つで 

- 1の学び(4~6年生)

数えの1から、もとにする数としての1へ



# 5 本町田ひなた小での学び

## (1) 目指したい授業

\* 子供が学習計画を立て課題解決していく

究極のお米とは？

産地

日本海側に？

品種

南国の植物

品種改良？

栽培

何か国が？

日本と他国

調理

食べ方の違い

おいしく調理

情報収集・整理分析

まとめ・発表準備

説明・発表

教科等横断的な学習だからこそ、子供のペースを保証した学びが可能になる

早く終わった子：興味に応じて深く「学びの個性化」へ  
悩んでしまう子：方向性を支援する「指導の個別化」へ

## 5 本町田ひなた小での学び

### (2) 授業の土台としたいもの

- 話し合う授業

既知の事柄(知識・技能)の交流

- 教え合う授業

一方的な権力関係になりがちであり、  
「待つ子供」になりがち



**だから聴き合う授業！**

## 5 本町田ひなた小での学び

### (4) 聴き合う授業の確立

- 一人一人に考えさせる授業を  
体育の「逆上がり」で例えると  
\*なぜ、自分是可以できるようにになったのか。  
\*なぜ、友達はできないのか。



未知の事柄(知識・技能)の探究

聴いた仲間にとって、一番適した解決策を考える

# 5 本町田ひなた小での学び

## (5) 仲間は、学びを活性化する

ヴィゴツキーの「発達の最近接領域 (ZPD)」の考え方から

同学年の仲間からの言葉だからこそ、適切なアドバイスになる。教員もこのレベルを捉えること。



## 6 子供たちを育てるために

### (1) 豊かな心の育成

#### ① 異学年交流の推進

- ・集団の中でのルールと役割の自覚

#### ② 「ひなたの100冊」(仮称)など読書活動の推進

- ・図書委員会活動の活性化(創造的活動の推進)
- ・読書週間などの充実
- ・親子読書週間など保護者も一緒に

#### ③ 児童による学級、学年、委員会活動を活用した 気遣いある行動力の育成

- ・道徳的行為などを実践させる場と機会の設定

それぞれの学年で自らの活躍する場を実感する

## 7 保護者・教職員で目指したいこと

(1) 全ての子供にとって、学級、学年、学校が

<sup>い</sup>居場所であり、  
<sup>い</sup>要場所であること。

ひなたっ子は、〇〇である

創造

協力

思いやり

絆

## 7 保護者・教職員で目指したいこと

(1) 全ての子供にとって、学級、学年、学校が

<sup>い</sup>居場所であり、  
<sup>い</sup>要場所であること。

ひなたっ子は、〇〇である

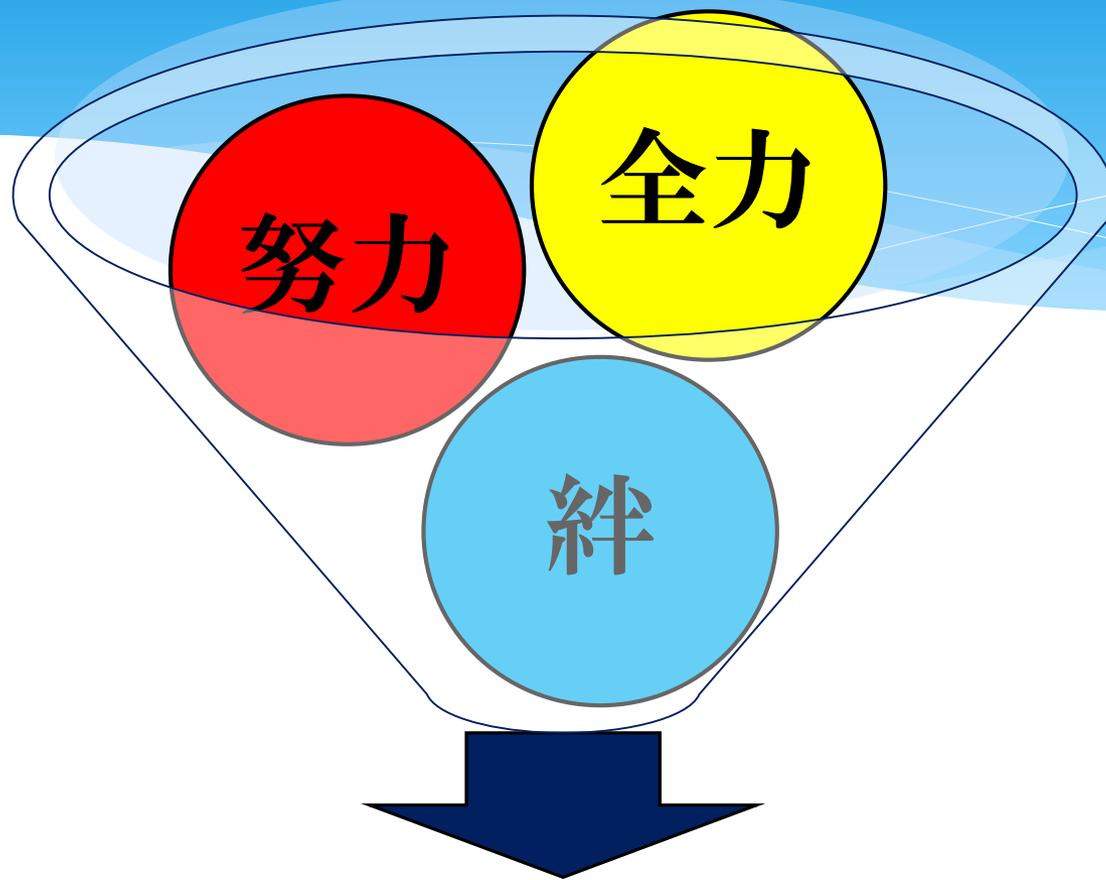
朝遊び

仲よし

手本  
憧れ

ルール

## 8 今年度のキャッチフレーズ



仲間が増えるって、おもしろい！  
楽しい！できることいっぱい！



御清聴、ありがとうございました。